



きらきら Eye ランド

JA 庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第9号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

今年も高温予報！ こまめな水管理で根の活力維持を！

7月10日現在の生育状況は平年に比べ「草丈は長く」「茎数はやや少なめ」「葉色は平年並～淡い」「葉齢は平年並～やや早い」となっています。

仙台管区気象台の向こう1カ月予報（7月11日発表）によると、気温はかなり高くなると予想されております。圃場が十分に乾いていない場合は、こまめに作溝の手直しを行い圃場の乾きを促しましょう。その後は間断灌水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。なお、7月10日付けで高温対策情報を記載したグリーンプロジェクト緊急号を発行しております。各種高温対策を参考に対応くださるよう宜しくお願い致します。斑点米カメムシ類の活動が活発になる時期です。特に畦畔・農道・休耕田等の雑草の多いところで増殖しますので、地域を挙げた一斉除草で生息密度を低減しましょう。

◎現在の生育状況（7月10日現在の生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色 (SPAD 値)
は え ぬ き	64.7 cm (106)	597 本/m ² (94)	10.5 (−0.1)	40.4 (+0.4)
つ や 姫	69.1 cm (108)	476 本/m ² (96)	10.6 (+0.2)	38.2 (−2.9)
雪 若 丸	62.3 cm (106)	684 本/m ² (98)	11.7 (+0.8)	41.3 (−3.4)

出穂期予測（平坦部）…各地区の現地巡回調査による。

ふくひびき	ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
7/27～7/31	7/31～8/4	8/1～8/5	7/31～8/4	8/6～8/10

※飼料用米「ふくひびき」は実需先より数量確保を望まれています。圃場によっては実肥（目安：出穂後3日以内、1.0～1.5 kg/10 a）の実施を検討し、増収を目指してがんばりましょう！



つや姫・雪若丸情報コーナー

気象変動に負けない！庄内みどりのつや姫・雪若丸



○適切な水管理で品質・食味の向上を！

雪若丸は8月3日頃、つや姫は8月8日頃の出穂期となる見込みです。中干し後も花水（出穂）の時期までは間断灌水を実施し、土壌を酸化的に維持し、根の伸長や発根促進に努めましょう。

技、其の一 水管理の徹底を！

1. 圃場が乾いていない場合は作溝の手直しを行い、暗渠排水を利用し出穂直前までできるだけ圃場を乾かすことを優先しましょう。
2. 乾いた圃場では、2湛2落（間断灌水）の水管理を行い、土壌水分が不足しないよう注意しましょう。（落水時にも作溝に水が溜まる程度）
3. 出穂前14～7日（7月下旬）に平均気温20℃以下の低温が続くと障害型不稔が発生する危険があります。低温時には一時的に深水管理（水深15cm）を行い、稲体・幼穂を保護しましょう。
4. 出穂から穂揃い期（7日間程度）までは、開花・受精に十分な水分（花水）が必要になります。開花期は湛水状態とし、穂揃い期以降は土壌水分や圃場条件に応じた間断灌水（2湛2落または2湛3落）へ移行しましょう。
5. 高温年次は『飽水管理（作溝に水を溜めておくこと）（土中に十分な水分がある状態）』に努め、圃場全体への長期の溜めっぱなしは避けましょう。
6. 出穂直後、高温・強風（フェーン現象）に遭遇すると白穂や枝梗枯れ等が発生しやすいため、天気予報を注視し事前に湛水するなど、稲体を保護しましょう。

技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りと雑草除去を！

7月2日付で斑点米カメムシ類発生予察注意報が発令され、斑点米カメムシ類の発生量は「多い」となっております。

出穂期になると畦畔・農道・休耕田等から水田内への飛来侵入が多くなります。

カメムシ対策は、適切な薬剤防除と、圃場周辺の「こまめな草刈り」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」が重要です。草刈りは、8月上旬の無人ヘリ防除前までに刈り終えるようにしてください。

※8月中の草刈り休止期間については現在検討中です。登熟進度と、稲刈りの推定開始時期から総合的に判断し改めてご連絡（8月20日頃）致します。

一斉草刈りデー 7/20(土)～22(月)

技、其の三 こまめな圃場巡回で病害虫の早期発見を！

いもち病は早期発見に努めることが重要です。葉色の濃い圃場や過繁茂の部分を観察し、上位葉に葉いもちが確認されたら、直ちに追加防除を実施しましょう。

また、紋枯病の発生は「やや多い」と予想されています。昨年発生が多くみられた圃場や、例年発生の見られる圃場では、圃場を良く観察し、いもち病を確認した場合は穂ばらみ後期または出穂期に追加防除を実施しましょう。

- 稲こうじ病の防除時期です。例年発生している圃場では、下記薬剤で対応しましょう。

薬剤名	10 a 当り使用量	使用時期（出穂期8月3日の場合）
モンガリット1 ^キ 粒剤	1 k g	出穂前14日（7月20日頃まで）
ブラシン粉剤DL	4 k g	出穂前10日（7月24日頃まで）
Zボルドー粉剤DL	4 k g	出穂前14～10日（7月20～24日頃まで）

※Zボルドー粉剤DLは、葉が濡れている時や出穂期近くに使用すると薬害の恐れがありますので、必ず出穂10日前までの葉が乾いているときに使用してください。



◎ 令和6年度 粉剤防除計画

一斉防除時期	防除薬剤名	使用量/10a	対象病虫害名
7月下旬 (穂ばらみ後期)	ノンブラストレバリダ粉剤 DL	4kg	いもち病、紋枯病 カメムシ類
8月上旬 (穂揃期まで)	ダブルカット K 粉剤 DL	3～4kg	いもち病 カメムシ類
8月中・下旬 (乳熟期)	キラップ粉剤 DL	4kg	カメムシ類、ウンカ類、 イナゴ類

※粉剤（粒剤）防除の場合

1. 各地区の防除計画に基づき、必ず一斉防除期間内での実施をお願い致します。
2. 農薬の使用時には、農薬の使用基準を順守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないように十分留意してください。
3. 特別栽培米は計画された薬剤以外は使用できませんので、必ず各営農課へご確認ください。

技、其の四 こんな稲は倒伏軽減の対策を

ひとめぼれ 出穂12日前の生育（7月21日頃）

危険度	草丈（cm）	葉色	対 策
中	73～75 cm	4.8 以上	倒伏軽減剤 2kg/10a 施用
大	76 cm 以上	4.8 以上	倒伏軽減剤 3kg/10a 施用

【倒伏軽減剤の使用について】

出穂の20～10日前に倒伏軽減剤を使用する場合は、「スマレクト粒剤」または「ロミカ粒剤」を使用しましょう。特別栽培米および飼料用米には使用できませんのでご注意ください。スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

当面の大豆管理対策

今年は全般に生育は順調ですが、今後長雨の影響が懸念されます。適切な管理で高品質・安定多収を目指しましょう。

1. 生育対策

- ・開花前に株元までしっかりと仕上げ培土を実施しましょう。
- ・大雨により圃場内に停滞水が見られる場合は、すみやかな排水とともに、排水路の点検・手直しを行ない今後の降雨に備えましょう。
- ・葉色が薄い圃場では、培土前に必ず尿素 10kg（現物量）/10a 等の追肥を実施しましょう。

2. 雑草対策

大型化する雑草（タデ類、オナモミ、シロザ等）は早めに抜き取りましょう。放置すると害虫の発生も多くなり、コンバイン収穫にも支障をきたします。良質大豆を生産するために、早めに除去しましょう。

3. アブラムシ対策（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）

アブラムシは、気温が高くなると8月以降に発生が多くなることがあるので、注意深く圃場を見回って、早期発見に努めましょう。

園芸情報

ケイトウの栽培管理

～密植して、少肥で茎を細く、硬く仕上げるのがポイント～

ほ場準備	施肥量（kg/10a）窒素5～10：リン酸5～10：カリ15～30 ※肥料分が残っている圃場では半分を基肥とし、様子を見て追肥。 一施肥例（砂丘地）－ ・有機&エイト 100 kg/10a ※上記窒素成分量の8割を基肥とした場合 ・ケイ酸カリ 50 kg/10a ・苦土石灰 60 kg（pH5.5～6.5になるよう調整）
栽植様式	株間10～12cm、条間10～12cm、6条
は種育苗定植	発芽適温：25℃ 盆出し…5月下旬～6月上旬は種（直まき） 彼岸出し…6月下旬～7月上旬は種（直まき） コート種子を利用。 直播栽培：1か所に2粒は種し、発芽約1ヵ月後に間引いて1本にする。 移植栽培：セルトレー（200穴）の1穴に2粒は種し、発芽揃い後に間引いて1本にする。本葉3～4枚（は種後1ヵ月程度）で定植する。
灌水	は種後は乾かないようにこまめに灌水する。発芽揃い後は徐々に灌水量を減らす。その後は乾燥気味の管理とし、生育が過度に旺盛になるのを防ぐ。
追肥	開花期に下葉がわずかに黄ばむ程度に管理する。葉色を見て必要であれば、発蕾後に窒素（硝酸態主体）とカリ成分を含む液肥で追肥する（ピーターズ15-11-29またはOK-F・3）。
ネット張り	草丈20～30cmになったらフラワーネットを張る。
病虫害防除	立枯病、疫病（葉に病斑、地際部が軟化）→ 被害株の抜き取り、土壌消毒 ハダニ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類、アブラムシ類 → 初期防除の徹底

農薬の適正使用と空容器の処理について

- ・ 農薬を使用する場合は、使用前に農薬ラベルを確認しましょう！
- ・ 周辺への薬剤の飛散に十分注意しましょう！
- ・ 防除器具（ノズル・ホース・ポンプ・タンク）等の洗浄は必ず行いましょう（器具の洗浄不足により、野菜や果実の残留農薬分析で異常検出や超過検出されている事例もあります）。
- ・ 農薬の保管は、保管庫に必ず鍵を掛けて保管しましょう。又、使用済みの農薬の空容器等は、各支店・各資材店舗で年2回実施している農業用廃プラ回収日に処分しましょう。

高温対策について

- ・今年も昨年並みの暑さがすでに予想されていますので高温対策をしっかりとしましょう。

★次号の発行は8月9日です！